

重 要 業 務 指 標 (KPI)

安心・快適な生活環境の創造

事業	KPI	算 式	説 明	H18年度 数 値	H24年度 数 値	H25年度 数 値	H26年度 数 値	H29年度 目 標 値
水道	水質基準不適合率(%)	$(\text{水質基準不適合回数} / \text{全検査回数}) \times 100$	水質基準で定められている基準値を満足していることを示す指標。0%であるべき。	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	貯水槽水道指導率(%)	$(\text{貯水槽水道指導件数} / \text{貯水槽水道総数}) \times 100$	私有財産である貯水槽水道への水道事業者の関与状況を示す指標。高いほどよい。	2.50	52.12	86.51	87.75	90.00
	鉛製給水管率(%)	$(\text{鉛製給水管使用件数} / \text{給水件数}) \times 100$	鉛製給水管の使用状況を示す指標。低いほどよい。	37.70	37.84	38.51	37.75	25.00
	自己保有水源率(%)	$(\text{自己保有水源水量} / \text{全水源水量}) \times 100$	水源運用の自由度を示す指標。高いほどよい。	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
下水道	人口に対する普及率(%)	$(\text{処理区域人口} / \text{行政区域人口}) \times 100$	下水道事業の進捗状況を表す指標。高いほどよい。	90.40	94.43	94.92	95.03	96.00
	水洗化率(%)	$(\text{水洗便所設置済人口} / \text{処理区域人口}) \times 100$	公共下水道が利用可能な方々のうち、公共下水道に接続したお客様の割合。高いほどよい。	96.01	97.21	97.98	98.05	97.00

危機管理対策の充実

事業	KPI	算 式	説 明	H18年度 数 値	H24年度 数 値	H25年度 数 値	H26年度 数 値	H29年度 目 標 数 値
水道	管路の耐震化率(%)	$(\text{耐震管延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	水道管の耐震化状況を示す指標。高いほどよい。	0.70	6.80	8.04	9.69	15.00
	浄水施設耐震率(%)	$(\text{耐震対策の施されている浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	浄水施設の耐震化状況を示す指標。高いほどよい。	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
下水道	施設の耐震化率(建築)(%)	$(\text{耐震化した建築施設数} / \text{耐震化が必要な建築施設数}) \times 100$	地震に対しての施設の安全性及び維持管理の安定性を示す指標。高いほどよい。	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	合流式下水道改善率(%)	※下水道合流改善対策の実施割合での評価方法に変更(H24実績より) 新計算式【必要とする対策数/実施対策数】×100	合流式下水道の改善率を示しています。高いほどよい。	5.00	85.14	100.00	100.00	100.00
	雨水排水整備率(%)	$(\text{整備済面積} / \text{雨水計画面積}) \times 100$	雨水排除のために下水道の整備が必要な全体面積のうち整備が完了した面積の比率。高いほどよい。	33.14	35.34	35.36	35.42	37.30

持続可能な事業経営

事業	KPI	算式	説明	H18年度 数値	H24年度 数値	H25年度 数値	H26年度 数値	H29年度 目標数値
水道	給水収益に対する 企業債償還金の割合 (%)	$(\text{企業債償還金} / \text{給水収益}) \times 100$	給水収益に対する企業債償還金の割合を表しており、企業債償還金が経営に与える影響を示す指標。低いほどよい。	33.00	34.28	18.56	12.96	19.40
	企業債償還金対減価償却費比率 (%)	$(\text{企業債償還金} / \text{当年度減価償却費}) \times 100$	投下資本の回収と再投資との間のバランスを表しており、財務的安全性を示す指標。低いほどよい。	110.30	97.01	50.23	32.34	43.60
	有収率 (%)	$(\text{年間総有収水量} / \text{年間総配水量}) \times 100$	給水される水量がどの程度、収益につながっているかを示す指標。高いほどよい。	79.60	80.04	79.01	77.40	86.20
	管路の更新率(単独事業のみ) (%)	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	管路の更新状況を示す指標。高いほどよい。	0.20	0.73	0.87	1.17	1.00
	外部研修時間(時間)	$(\text{職員が外部研修を受けた時間} \cdot \text{人数}) / \text{全職員数}$	職員の資質向上のための取組状況を示す指標。高いほどよい。	15.90	7.36	5.13	8.20	16.00
	内部研修時間(時間)	$(\text{職員が内部研修を受けた時間} \cdot \text{人数}) / \text{全職員数}$	職員の資質向上のための取組状況を示す指標。高いほどよい。	17.80	9.67	11.25	17.44	21.00
下水道	繰入金比率(収益的収入分)(%)	$[\text{損益勘定繰入金(雨水処理負担金実繰入額} + \text{他会計補助金実繰入額} + \text{他会計繰入金実繰入額} + \text{損益勘定他会計借入金}) / \text{収益的収入}] \times 100$	収益的収入における繰入金の依存度を表しており、下水道事業の経営状況の健全性、効率性を示す指標。低いほどよい。	52.36	48.09	40.12	29.29	40.00
	汚水処理原価(円/m ³)	汚水処理費/年間総有収水量	有収水量 1 m ³ あたりの汚水処理費。この数値が低いほど効率的。	228.30	149.60	147.15	145.15	150.00
	経費回収率(%)	$(\text{下水道使用料収入} / \text{汚水処理費}) \times 100$	汚水処理に要した費用に対する下水道使用料による回収率。この数値が高いほど経営健全。	57.10	100.15	101.75	103.43	100.00
	汚水管きよ延長(m)	—	汚水を排除するため、市内に布設された管きよ(汚水管)の延長。	820,998	892,333	902,491	911,820	945,000
	雨水管きよ延長(m)	—	雨水を排除するために市内に布設した管きよ(雨水管)の延長。	265,158	270,721	271,198	272,330	293,000
	管きよ改善率(%)	$[\text{改善(更新・改良・修繕)管きよ延長} / \text{下水道維持管理延長}] \times 100$	管きよの安全性の確保のため、維持管理延長のうち、1年間で改善(更新・改良・修繕)された管きよ延長の比率。高いほどよい。	0.09	0.23	0.16	0.31	0.20
	主要設備の老朽化率(%)	$(\text{主要設備の経過年数の総計} / \text{主要設備の標準的耐用年数の総計}) \times 100$	標準耐用年数を超えている主要設備(①ポンプ設備、②水処理設備、③特高受変電設備、受変電設備)の経年化の割合。低いほどよい。	101.04	102.51	108.35	114.77	90.00
	有収率 (%)	$(\text{年間総有収水量} / \text{年間総汚水処理水量}) \times 100$	年間の総汚水処理水量のうち、使用料徴収の対象となった水量(有収水量)の割合。高いほどよい。	56.76	57.07	56.73	58.04	75.00

満足度の高いお客様サービスの向上

事業	KPI	算式	説明	H18年度 数値	H24年度 数値	H25年度 数値	H26年度 数値	H29年度 目標数値
共通	アンケート情報収集割合 (人/1000人)	$(\text{アンケート回答人数} / \text{給水人口}) \times 1000$	消費者ニーズの収集状況を示す指標。高いほどよい。	0.80	4.49	5.09	5.52	4.60

環境と社会に配慮した事業の推進

事業	KPI	算式	説明	H18年度 数値	H24年度 数値	H25年度 数値	H26年度 数値	H29年度 目標数値
水道	浄水発生土の有効利用率 (%)	$(\text{有効利用土量} / \text{浄水発生土量}) \times 100$	浄水発生土の有効利用から見た環境保全への取組状況を示す指標。 高いほどよい。	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
下水道	晴天時汚濁負荷除去率(BOD)(%)	$[1 - (\text{放流水質(BOD)} / \text{流入水質(BOD)})] \times 100$	年間を通じた汚濁負荷(BOD)の削減率。高いほどよい。	97.53	98.64	98.35	98.55	97.70
	下水汚泥リサイクル率(%)	$(\text{汚泥利用量} / \text{発生汚泥量}) \times 100$	1年間に発生した汚泥量に対し、有効利用された汚泥量の比率。 高いほどよい。	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00